

# 見本

平成二五年度 群馬大学教育学部 国語専攻 推薦入試問題

次の文章は、『論語』について解説したものである。これを読んで、後の問に答えなさい。  
(都合により、本文を一部改変、省略した。)

A 子曰、不憤不啓。不悱不発。挙一隅不以三隅反、則不復也。

子曰はく、憤せずんば啓せず。悱せずんば発せず。一隅を挙げて三隅を以て反らざれば、則ち復たせざるなり。  
〔述而第七〕

\*1 物事の一つの隅を示しても、残りの三つの隅には反応しない

孔子の基本的な教育方針を述べたもの。「憤」とは心が疑問でふくれあがること、「悱」は言いたいことが口まで出かかっているのに、うまく表現できないことをいう。最後の「一隅を挙げて三隅を以て反らざれば……」は、弟子が対象についてまだ充分に理解できず、習熟していないことを示し、そんな場合は時期尚早だと判断して、繰り返し教えないという意味である。

B 子曰、不曰如之何<sup>＊2</sup>、如之何者、吾末如之何也已矣。

子曰はく、之を如何<sup>これいかん</sup>、之を如何と曰はざる者は、吾之を如何ともする末<sup>な</sup>きのみ。

〔衛霊公第十五〕

\*2 どうしたらよいか

前条と同様、孔子が弟子自身の問題意識や知への欲求を最重視したことを、より明確に述べた言葉である。「如何」という語に焦点をあて、「如何、如何」と言わない者に対しては、自分は「如何ともする末<sup>な</sup>きのみ」とする表現には、ユーモラスな機知<sup>ひんぎ</sup>の閃きがあり、孔子の言語感覚の鋭さがうかがえる。

(井波律子『論語入門』)

問 あなたは、ここで述べる孔子の教育観をどのように考えますか。A・B各条の解釈を踏まえ、〈評価する点〉〈評価しない点〉の両面から述べなさい。字数は四〇〇字以内とする。